

「研究をする」ということはどういうことでしょうか、私は短大の保育科に就職して、初めのころよく、「何か研究をしなければならぬ」とあせりを感じたものでした。しかしそうはあせってみたものの決してよいテーマなど思いうかばうはずありません。またそのような浅薄な頭から浮び上がってくるテーマなどというものは、子どもに苦勞ばかりかけてあまり役にもたない、研究のための研究であったり、とつくの昔に偉大な先人が明らかにしたものであったりしました。

それから少々考えを改め、「研究」はしなくてもよいから、ともかく少しでもよい授業をするように努めなければならぬと思います。子どもたちの力を精一ぱい發揮させられるよい保育者を育てるためにまず知らなければならぬこと、学ばねばならないことは何か、そこでもかく、子どもを知り、製作活動の実態をおさえることにしました。それからせつと幼稚園にかよい、子どもたち

の活動を見ているうちにいくつかの疑問を感じました。

なぜ子どもたちは油粘土で小さいものばかりしか作らないのだろうか、そしてよく観察してみると、堅さが関係してい

倉橋賞を受賞して

綾 部 純 子

るらしいことを感じました。そこで子どもたちによい粘土とは何かを考え、科学的うらづけをしてみたところ一つのレポートができました。そして次に紙製作を見ている時、接着が製作の一つのポイント

トになっていることに気づき「のり」について実験したり、観察をしてみました。

研究のために研究をする必要はなかったのです。真剣に、よい保育とは何だろう、少しでも製作活動をよくするためはどうしたらよいか、今子どもたちの活動をはばんでいるものは何か、と子どもをじっとみつめているうちに疑問が出てきて、その疑問をなぜなぜと追っているうちに、いつの間にか研究が始まっており、それら一つ一つをおさえて実験したり、考察しているうちに論文ができていました。

保育活動の中にはまだたくさんさんの解明されない常識や習慣があるのではないでしょうか。あたりまえのこと一つ一つに今一度鋭い目を向け、確かなうらづけを持ちたいと思います。

このたびこのような評価をいただきましたことをうれしく存じます。最後に観察や実験に協力して下さいった幼稚園の先生方に心からお礼申し上げます。